



(12) 稲荷町停車場工事中(東京地下鐵道)

(12) Tokyo Under-Ground Railway Company's Inaricho Station now underconstruction.

我國地下文明の先驅

東京地下鐵道上野淺草間建設工事成る

計劃より會社創立まで

本地下鐵道が計劃されてから、第一期線たる上野淺草間が開通するまでには、歲月を闊するに實に十四ヶ年の長きに亘つた、この長い間には幾多の迂餘曲折があつた。

この地下鐵道を最初に計劃したのは早川徳次氏である、氏は大正三年八月、世界の交通機關及び港湾調査のため渡英し、同五年の末歸朝して、東京に地下鐵道を敷設すべく調査苦心を重ねた結果、地下鐵道敷設の理由書を作製して、高田早苗博士や澁澤子爵や東京商業會議所會頭だつた故中野武營氏等の援助を

得た。

かくて二年餘の後會社設立となるや、東京地下鐵道株式會社と改め（元は東京輕便地下鐵道）たが、この人氣は素晴らしく全國一流の實業家百九十八名の多數が發起人となつた程だつた。然し大正九年の彼のバニツクは、四千萬圓の資本金を壹千萬圓に減するの餘儀なきに至らしめ而も漸く金壹百萬圓を調達し得たに過ぎなかつた、そして同年九月二十九日根津嘉一郎議長の下に創立總會を開いたが出席株主の大多數は解散説を主唱し、將に決裂せんとする情勢の所、漸く全員の賛同を得

辛うじて會社成立はなつたのである。

頓挫より變更施工へ

そこで鐵道省技師安部邦衛氏を聘して全線の地質調及新橋上野間の設計を終り、氏をして海外各國の實際を調査せしめ、一方資金調達に努めたがその時彼の大地震災に遭遇した。萬事休すだ、止むなく社員の三分の二を減じて籠城した、かゝるうち同年十二月五日の重役會の席上で大川平三郎氏の案により、新橋上野間を上野淺草間を第一期線と變更した。

愈々地下鐵實現

この時、大倉土木株式會社から工工事費支拂は後拂で宜しいから、是非工事を任せて呉れとこいふ申出があつたので早速工工事請負金額に就て交渉したところ、豫算圏内で済むべき額だつたので、この土木工事は凡べてを大倉組に請負はせることに決した。

かうした経路を辿つて、大正十四年九月二十七日めでたく起工式を行つたのであつた。爾來工事は着々進捗したが、何しろ地下鐵道工事は我邦に於ては處女工事だつたから、てんで豫定なきは着かず、何事も實際に打つ突かつて初めて設計するこいふやうなこも決して再三ではなかつた、思へば實に難澁千萬であつた。それだけ技術家の苦心は殆ど想像に餘りあるものであつた。竣工したのは昭和二年十二月二十一日、二年三ヶ月かゝつた譯である。

線 路

上野淺草間延長 一哩二十七鎖四十九節八六。

軌 道

1. 全線複線、軌間四呎八吋二分ノ一。
2. 軌條重量
 走行軌條 每碼=付 百封度
 第三軌條 每碼=付 九十封度
3. 枕 木
 走行軌條用 幅八吋 厚九吋 長八呎
 第三軌條用 幅八吋 厚九吋 長九呎
4. 軌條敷設飯 枕木毎に米國製二十分の一勾配のものを用ひ、各軌條には「ランチクラーパー」四個宛を使用す。
5. 道 床
 二線部 停車場並に車庫線の一部
6. 交叉互線並に轉轍器 上野淺草兩停車場には交叉互線を設け、上野停車場には車庫線分岐轉轍器を設く。

停 車 場 設 備

1. 相對式乗降場とし長さ各三百呎。
2. 上野並に淺草兩停車場には中階を設けて之を容溜してある。
3. 改札口にはターンスタイル、並にバツシメーター(回数券用)を据付け出札所は設けてない。
4. 場内の裝飾工事はドルマイド塗及テラカッタ張とし驛名札の名、右料廣告欄を設けた。
5. 出入口は復興計畫未完のため、稻荷町停留場北側のみを本建築とし他は全部假出入口とした。

尚ほ工事施工の狀況詳細は工事書報十四年七月號を参照せられ度し。(以上)

設計並に工事關係者

技 師 長 遠 武 勇 熊
 建設課長 愛 甲 勇 吉
 電氣課長 林 昭 徳
 工事監督者 小田秀吉 渡邊忠次 仲矢大
 新堀良 武藤酉之助 平田小市 福井友三郎
 播磨屋泰三 室橋信一郎 野邊泰助 神邊達
 吉川清次 平田克巳 石橋藤太 白石靖 鈴
 木俊雄 恩田延次 山下林平 岡田義一

景安武重 堀越重晴 山田八郎 進藤正二

工 事 請 負 者

土木建築一切 大倉土木株式會社
 第三軌條設置工事 三菱商事株式會社
 信號並に聯動裝置工事 株式會社京三商會
 停車場修飾工事 淺野物産株式會社
 電氣工事 東京電工社
 電氣工事 工電社